

令和3年1月20日

研究推進部 担当 佐々木

令和2年度 ユネスコスクール NISHITA 校内研通信 No. 4

1年生研究授業 生活科「あきとなかよし」1年3組

◆本時について

評価規準：

〈発表者〉

おもちゃの紹介ポイントを決め、くふうや材料を選んだ理由等を考え説明できるようになる。

〈聞き手〉

友達の発表を聞き、材料の生かし方の良さや思いに気付き、自分と同じところや違うところを意識しながら聞くことができるようになる。

○何を教えるのか：自然事象との関わりを通して、生命の多様性と共通性に気付く。

○どのように教えるのか(方法)

- ・「専門家との対話」：フィールドビンゴに取り組み、五感を使って感じる。
- ・「自己との対話」：ものづくりにより、素材ごとに似ていることや違うことを、五感を通して感じる。
- ・「仲間との対話」：作ったものの発表会を通して、自分の感じたことや考えたこと、互いの良さや共通点に気付く。

○どのような力を育てたいのか：

- ・生命の多様性と共通性について感じる力
- ・自分の思いや考えなどを適切な方法で表現する力
- ・コミュニケーションを行う力

◆協議会での意見 授業を振り返る視点

・自然事象に対して五感を通して関わり、感じたことを仲間によりよく伝えたり、聞いたりすることができたか。また、これらの取り組みを通して理科生命領域の「多様性と共通性」について感じる力を育成することができたか。

- 国語分科会より/発表シートを用いて全員が自分のおもちゃを紹介できたのが良かった。/質問するのは難しい。感想を伝えることから。/話して終わりではなく、会話のキャッチボールを続ける指導が必要。
- 図工分科会/紹介ポスターの出来が良い。しかし、ワークシートを介したやり取りになってしまった。高学年に向けて、段階的に伝える力を育てる指導をしていきたい。少しずつ紙を見ないで話せるようにハードルを上げていく。/おもちゃを見せながら話せるとよかった。
- 理科分科会/「音が違う」などの発言が多く、五感を使って伝えられたのではないかと感じた。/フィールドビンゴの経験から、外部の方との協力はやはり不可欠なものだと感じた。/6年間でどんな力をどう付けさせるのか、段階を明確にする必要がある。
- 社会分科会/発表ポスターを読んで伝え合うと壁が生じてしまう。/低学年から経験を積ませることで徐々に見ないで話せるようになるのではないかと感じた。

◆本研究授業を振り返って—研究主任より—

理科の見方・考え方である「多様性と共通性」を生活科との関連で捉えることで、見方・考え方や資質能力等を軸にしたカリキュラムづくりの有効性を確認できたと考えます。また協議会で話題になりました、伝える力の育成を目的とした発表活動の6年間の指導方針の系統性の作成は、今後の大切な課題であると考えます。例年に比べ、多様な経験を積むことができなかった1年生ですが、それをいかに補い、また子供たちの力を伸ばしていくかを考えることができたと思います。対話に関して、この学校がこれまで培ってきた、環境ネットワークの皆さんとの関わりが、「専門家との対話」として1年生でも有効であることが確認できました。また、「仲間との対話」に関して、小学生になり初めての交流授業でしたが、生き生きと表現する子供たちの姿から、対話や学び合いの効果を感じました。来年度は幼稚園・保育園との交流など、より広がっていくことを願っています。

1年生の先生方、生活科・理科分科会の先生方、ありがとうございました。